

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。</p> <p>②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。</p> <p>③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。</p>	<p>①新学習指導要領による教育課程の定着をはかる。</p> <p>②「『探究的な学習』を取り入れた授業改善」をテーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを積極的に推進する。</p> <p>③コロナ禍を踏まえて、生徒会行事・学校行事をより生徒が主体的に活動できるよう支援する。</p>	<p>①3年次での選択科目が増えた新教育課程をふまえ、生徒が適切な科目選択により、進路実現に結びつけるため、説明会・資料の充実を図り、理解を図る。</p> <p>②授業力向上研修会(4回)、研究会(1回)、授業互見週間(2回)を通し、『探究的な学習』を取り入れた授業に取り組み、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>③生徒会本部との連携を密にし、生徒主体の行事が実施できるよう支援する。また、オンラインで活用したほうがより効果的な行事(生徒総会・生徒会役員選挙)はオンラインも併用して実施する。</p>	<p>①生徒が新学習指導要領に基づく教育課程の特長を理解しているか。教員に旧課程との変更点が理解されているか。</p> <p>②各教科の自己評価、生徒による授業評価、取組における教員の意識行動調査に改善が見られたか。</p> <p>③生徒会生徒や委員会の生徒を中心に行事が実施でき、自己肯定感を高めることができたか。</p>	<p>①新2・3学年とも教育課程での初めての科目選択となった。必修選択科目の中でも、講座により履修希望者数に極端な違いが生じる結果となり、閉開講の基準が課題となった。</p> <p>②研修会を4・6・11月に実施した。第2回においては、有識者による講演を実施した。また、6月と11月に授業互見週間を設定した。</p> <p>③体育祭については保護者の観覧は無制限、文化祭については調理団体の実施及び一般公開と令和元年度以前の内容で実施することができた。生徒総会と生徒会選挙はオンラインで実施した。</p>	<p>①新教育課程での科目選択の動向を踏まえ、選択科目の組み合わせについては、来年度以降、改めて検討していく。</p> <p>②6月に実施した第1回授業互見週間において、アンケートの回答者が少なかったことから、積極的な参加とアンケートへの入力呼びかけ。</p> <p>③生徒会生徒や委員会の生徒にもっと積極的に意見交換や作業ができるよう環境作りをさらに進めている。</p>	<p>ICTを活用した授業が行われることはよい。</p> <p>グループワーク等アクティブラーニングの視点に関連した取組は、今後も盛んに実施してもらいたい。</p> <p>教員が声を張り上げることなく落ち着いた雰囲気での授業が実施できている点はよい。</p> <p>新しい教育課程となり、芸術科目を選択する生徒が減っている点については懸念している。</p> <p>一般受検向けの模擬テスト等があり、その判定で気持ちが落ちてしまう生徒もいる。今後受検が本格化する中で、生徒への精神面でのサポートに注意してもらいたい。</p> <p>PTA行事についてコロナ以前にどこまで戻すか来年度に向けて考えていきたい。</p> <p>大綱中でも3色に分かれて応援アトラクションを実施している。港北高校の体育祭応援アトラクションはぜひ中学校の生徒にも参考にしてほしい点がある。</p>	<p>①新教育課程による科目選択は、対象となるすべての学年で無事終了した。選択科目の組み合わせについては、再検討する余地があることがわかった。</p> <p>②研修会を4・6・11・1月に実施した。第2回においては、有識者による講演を実施した。6月と11月に授業互見週間を設定した。それにより、「『探究的な学習』を取り入れた授業改善」を推進することができた。</p> <p>③学校行事、生徒会行事については概ねコロナ前の状況で実施することができた。生徒総会についても3月はオンライン投票を試み、開票作業についてスムーズに行うことができた。</p>	<p>①生徒の科目選択の動向を踏まえ、選択科目の組み合わせを検討していく。</p> <p>②「探究的な学習」を進めていく上で、生徒の課題設定の場が少なかったことや、適切な課題設定ができていない等の課題が挙がった。それを改善するために、研修等で教員の指導力向上を図る。</p> <p>③生徒会本部および各委員会との連携をさらに深め、生徒主体の行事が運営できるよう支援を続ける。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。</p>	<p>①生徒理解を基本とした支援を実践し、生徒の基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成を目指す。</p> <p>②部活動活性化を図り、生徒主体の部活動運営ができるよう環境整備をする。</p>	<p>①生徒一人ひとりが基本的な生活習慣や規範を意識し、心身共に安全で健康な学校生活を送るためのサポート体制を整備する。</p> <p>②部長会において、職員と部長との連携を密にし、各部活動との連携を図る。また、生徒の安全面・健康面に配慮し、休日部活動のありかたや部活動休養日についての考え方を職員・生徒で共有する。</p>	<p>①生徒が必要な支援を受け、課題解決に至るケースが増加したか。</p> <p>②部活動を通して生徒の自己肯定感が高められたか。</p>	<p>①大多数の生徒が規範を意識し、基本的な生活習慣を身に付けている。</p> <p>②部長会での部活動休養日や会計執行の説明は行うことができた。合宿については野球部・テニス部・軽音楽部で実施することができた。</p>	<p>①9月にかながわサポートドックを実施し、SC・SSWとの連携を経てプッシュ型面談を実施中である。その結果を受けて支援を要する生徒の課題解決の程度を検証する。</p> <p>②部活動の実績は継続して良いものを残している。休養日の考え方が年度途中から週休日の半日カウントがなく、体育館部活についてはかなり工夫した練習を来年度に向けて組まなければいけないため、各部活動の事情を詳しく確認する。</p>	<p>グーグルフォームによる生徒会選挙はよい取組である。</p> <p>マナーのよい生徒が多く、地域住民から話題にされることも多くある。</p> <p>港北高校の良い点は、穏やかでありつつも青春を燃やす落ち着いた場所としての母校を愛する気持ちを持った卒業生、生徒が多くいることである。</p> <p>今後同窓会として、部活動を支援するグループを作成すれば、資金援助につながることもできるかもしれないと考えている。</p>	<p>①全県で導入された2回のかながわサポートドックでは、一部の生徒について面談が実施できた。職員、SCの他、全県に配置されたSSWとの連携の在り方や、生徒や家庭の教育相談体制への理解について模索の必要がある。</p> <p>②部活動実績については陸上競技部・水泳部・放送部・書道部・軽音楽部・吹奏楽部で全国大会出場・入賞を果たすことができた。部活動休養日、港北高校の部活動のあり方を引き続き部長会・顧問総会で情報を共有した上で、部活動の活性化を図ることができるよう支援をしていく。</p>	<p>①従来の教育相談体制にかながわサポートドックを組み込み、よりよい生徒支援を行う。生徒に規範意識や基本的な生活習慣を引き続き自覚させ、心身の健全な成長やモラルの向上に自ら意識を高めるよう啓発する。</p> <p>②令和6年度より体育館改修工事があるため、体育館改修プロジェクトチームと連携しながら部活動の運営について検討していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。</p> <p>②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。</p>	<p>①3年間の運動したキャリア教育によって、生徒が主体的にキャリアプランを構想し、実現する力を育成する。</p> <p>②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制を充実させる。</p>	<p>①新学習指導要領における3年間の体系的なキャリア教育を構築する。校内模試等の効果的活用を進める。</p> <p>②進路情報の共有や研修会の実施により、進路支援の指導力を充実させる。</p>	<p>①キャリア教育の内容が進展したか。校内模試の前後の学習の計画が立てられたか。</p> <p>②生徒の多様な進路相談に対し、適切な指導ができたか。</p>	<p>①1年生の文理選択、2年生の科目選択の参考となる説明会やオープンキャンパスの案内など企画、実施した。</p> <p>②教員対象の上級学校説明会や校内模試の報告会などにより、進路支援の指導力の充実を図った。</p>	<p>①1・2年の1月模試と小論文講座について生徒が主体的に取り組む計画を立てる。</p> <p>②3年生の校外模試分析や共通テストリサーチによる適切な進路指導を行う。</p>	<p>・教員が、自身の進路選択等に関して、生徒に話をする機会があってもよいのではないかと。</p>	<p>①1・2年生の1月模試において前後の学習を合わせて企画し、主体的に取り組ませることができた。 2年生の小論文模試への取組に課題が見えた。</p> <p>②多様な進路希望に対応した指導ができた。 最新の進路情報を共有する必要を感じる。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む態度を育成できるように、1・2年生対象の説明会の内容を精選する。 2年生の小論文模試の内容を検討する。</p> <p>②新学習指導要領による入試情報を共有し、進路支援の充実を図る。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域との連携・協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。</p>	<p>①学校行事や地域行事、地域防災等において、地域と連携した教育活動を実施する。</p> <p>②本校の教育活動について、学校HPにより積極的に情報を発信する。 特に、新たな特色として「総合的な探究の時間」の取組を発信する。</p>	<p>①近隣小中学校との行事や地域との防災訓練等に積極的に参加する。</p> <p>②閲覧しやすい学校HPの構築に努め、時機を逃さず、早急に内容を更新する。 生徒、保護者等の意見を取り入れ、構成や内容の精選を進める。</p>	<p>①地域との連携・協働を推進できたか。</p> <p>②閲覧しやすく、タイムリーな情報をHPに掲載することができたか。 中学生の志願状況や保護者等に、学校HP改善の効果がみられたか。</p>	<p>①地域貢献デーにおいて、太尾小学校との連携を再開した。文化祭では子育て支援拠点どろっぶが出演した。</p> <p>②HPにおいて、学校説明会のページ等を変更し、見やすさを向上させた。 HPにて「総合的な探究の時間」における新たな取組や学校説明会の動画を発信した。 すでに、昨年度にHP更新回数71回を超えている。</p>	<p>①活動の制限が解除され、徐々に連携事業を再開してきたが、本校はカリキュラム再編、授業開始時間・終了時間の変更を行ったことから、従来の方法にとらわれずに、推進していく必要がある。</p> <p>②学校説明会の申込等をHP上で行っていることから、使いやすさも考えていきたい。</p>	<p>・地域で港北高校の生徒が話題にされる機会が多くあり、地域との交流はぜひ続けてほしい。</p> <p>・小学校との連携では、今回地域清掃を実施出来たが、マーチングバンドと吹奏楽部のコラボや、高校生による演奏指導、ジョイントコンサートが実施できるとよい。</p>	<p>①地域貢献デーにおいて、太尾小学校との連携を再開した。 文化祭では子育て支援拠点どろっぶに出演して頂いた。 活動の制限が解除され、徐々に連携事業を再開することができたが、拡充の余地がある。</p> <p>②HPにおいて、学校説明会のページ等を変更し、見やすさを向上させた。 HPにて「総合的な探究の時間」における新たな取組や学校説明会の動画を年次進行で進めていることから、具体的な内容を発信していく必要が優に超えた。</p>	<p>①カリキュラム再編、授業開始時間と終了時間の変更を行ったので、従来の方法にとらわれずに、連携先と十分な協議を行い、連携をさらに拡大していきたい。</p> <p>②学校説明会の申込等をHP上で行っていることから、使いやすさを追求していきたい。 「総合的な探究の時間」の新プログラムを年次進行で進めていることから、具体的な内容を発信していく必要がある。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校運営協議会を活用しながら地域との連携・協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。</p> <p>②定期的な不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。</p> <p>③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①昨年度の学校運営協議会において指摘された課題を学校運営に活かす。</p> <p>②不祥事ゼロプログラムの取組を継続し、不祥事防止に職員全体で取り組む。</p> <p>③業務の可視化、内容の精選を行い、生徒に十分な対応ができる学校づくりを目指すとともに、「ノー残業デー」を是正する。</p>	<p>①地域・PTA・同窓会等との連携による生徒への支援体制の充実を図る。</p> <p>②不祥事防止に係る研修会を充実させ、職員全体の同僚性を高める。</p> <p>③業務の可視化により、業務内容を整理し、生徒主体の教育活動が十分に図れるように努めるとともに、「ノー残業デー」を推奨する。</p>	<p>①検証課題を改善し、より具体的な学校教育の活性化に結び付けることができたか。</p> <p>②事故・不祥事ゼロを達成できたか。</p> <p>③業務の見直しを具体的に進め、教育活動の活性化に結び付けることができたか。また、「ノー残業デー」を実施できたか。</p>	<p>①太尾小学校及び子育て支援拠点どろっぶとの連携を再開した。 部活動の遠征費について、同窓会より支援をしていただいている。</p> <p>②毎月1回予定されている職員会議に付随して、不祥事防止研修会を全職員対象に実施した。</p> <p>③会議のペーパーレス化を進め、確保した時間を教育活動に振り向けることができた。</p>	<p>①学校運営協議会の委員の支援もあり、徐々に連携・共同事業を再開することができた。 本校の教育活動の変更を踏まえ、学校教育の活性化に結び付けていくか考える必要がある。</p> <p>②事故・不祥事なく業務を進めることができた。 今後も継続して取り組んでゆく。</p> <p>③全ての職員が「ノー残業デー」を確保できてはいないため、継続して取り組んでゆく。</p>	<p>・ICTを活用した生徒選挙の取組等を外部に発信（新聞投書等）することを検討してもよいのではないかと。</p> <p>・校内の取組の外部発信に関しては、学校紹介動画、授業動画をはじめとして、YouTubeなどを活用した方法が期待できる。</p>	<p>①昨年度の運営協議会で課題となった太尾小学校との連携や、子育て支援拠点どろっぶとの連携を再開することができた。 部活動の遠征費について、同窓会より支援をしていただき、部活動の活性化に役立てることができた。</p> <p>②概ね事故・不祥事ゼロを達成したが、定期テストや成績処理においてヒヤリハット事例が発生した。</p> <p>③一部打合せでペーパーレス化を実施できなかった。 ストレスチェックの結果はよくなっている。 特定の職員について、時間外労働時間が月45時間を超えることが多かった。</p>	<p>①学校運営協議会の委員の支援もあり、徐々に連携事業を再開することができた。 本校の教育活動の変更を踏まえ、どのように学校教育の活性化に結び付けるか考えるとともに、情報発信に努めていく。</p> <p>②風通しの良い職場環境を構築し、同僚性を高めるとともに、不祥事防止会議が中心となり、コンプライアンスの徹底と不祥事防止に取り組む。</p> <p>③職員のワークライフバランスを推進するため、働き方改革を推進する。</p>